

令和6年度第4回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議 議事概要

日 時	令和7年2月13日(木) 10:00～
会 場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者(敬称略)

No	所属等	氏名	出席状況
1	静岡大学 グローバル共創科学部 教授	須藤 智	出席
2	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 常務理事	藤原 学	出席
3	桑原淑浩司法書士事務所	桑原 淑浩	欠席
4	ソフトバンク株式会社 (掛川市役所 企画政策部 企画政策課 参事)	尾村 義隆	出席
5	NPO 法人かけがわランド・バンク 理事長	丸山 勲	出席
6	島田掛川信用金庫 島田本部 地方創生室 室長	齊藤 奈津子	出席
7	掛川市農業委員会 委員	鈴木 深雪	出席
8	掛川商工会議所 中小企業相談所 所長	山下 真弘	出席
9	医療法人 綾和会 掛川東病院 院長	宮地 紘樹	出席
10	社会福祉法人 大須賀苑 高齢者福祉事業部 部長	伊藤 文子	出席
11	掛川市社会福祉協議会 地域支援課 生活支援係 係長	堀場 美和子	出席
12	掛川市地区まちづくり協議会連合会会長	鈴木 浩	出席
13	株式会社LPフィナンシャルマネージメント 代表取締役	山崎 直人	欠席
14	元掛川市教育委員	永田 孝明	出席
15	一般社団法人 日本承継寄付協会 代表理事	三浦 美樹	欠席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	<p>皆様こんにちは。</p> <p>本日は、ご多用のところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、第4回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議を開催いたします。</p> <p>本日の予定でございますが、この後、議事に移り、概ね1時間30分を目安として会議を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
2. 市長あいさつ	
市長	<p>皆さん改めましておはようございます。</p> <p>お忙しいところ第4回多死社会の会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>またこの間この会議におきましては、会議で大変熱心にご協議いただき、答申をまとめるというところまで来ておりますので、心から感謝申し上げます。</p> <p>最近、県内各市で来年度予算案を発表している時期で、今朝の新聞には浜松市が出ています。</p> <p>掛川市は明日来年度予算について公表することになっています。</p> <p>その中には、この多死社会で議論いただいたことが既に反映されている部分がありますので紹介させていただくと、空き家の増加が懸念されていますという話があったと思いますが、例えば空き家に関する事業で、利活用の良いモデル事業を作り、こういう活用ならうちの空き家もできそうだなと思ってもらうことが重要です。</p> <p>良い活用してもらうためのリフォーム費用で、1,000万×3分の2を3本で3,000万円の予算や子育て世代、移住される方が空き家を取得して手を加えて活用する事業に最大150万円を用意しています。</p> <p>他にも交通では、移動困難者やバスの改善が必要という話がありましたので、将来型の交通としてオンデマンドを想定して、新年度は桜木地区を実証実験で予定しています。詳しくは明日発表して明後日の紙面に新聞に載るとは思いますが、ぜひ注目いただければと思っています。</p> <p>もう一点、皆さんのお手元に、新「私の健康人生設計ノート」という、いわゆるエンディングノートを配布させていただきました。このエンディングノートは7、8年前に掛川市で作ってありました。</p> <p>それを今回大幅にリニューアルして、健康と人生設計は元々あり、認知症の部分に書き加えた部分はありますが、住まい編と遺贈編が新たに加わって完成したばかりのものになります。</p> <p>この会議と並行して作成を進めていましたので、議論いただいたことをあらかじめ反映させて、完成させることができました。</p> <p>なお、遺贈寄付検証寄付協会の三浦さんからは、遺贈編がエンディングノートに加わっている例はほとんど見たことがないというコメントもいただきます。</p> <p>正式名称を「私の健康人生設計ノート」にしましたが、やはりエンディングという</p>

発言者	発言内容
	<p>言い方に少し抵抗があるという方が多かったので、正式名称としてエンディングという言葉は使わないことにしました。</p> <p>この会議でも多死社会という言葉に抵抗があるよという話もしていただき、そう思われる方もかなり多いということで、調整いたしました。</p> <p>以上、皆さんに議論いただき内容はこのように市の政策へ着実に反映されております。</p> <p>今日議論していただく諮問についてもしっかりと受けとめ、より良くなるように活動していきたいと思えます。</p> <p>では本日もよろしくお願い申し上げます。</p>
3. 議事	
会長	<p>本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>このようにご意見いただくのは今日が最後になると思えますので、第4回につきましても皆様の活発なご意見、ご議論をお願いいたします。</p>
議事 1	
会長	<p>それでは初めの議事1について、資料1の多死社会におけるまちづくりの現状および課題、対応策の確認について、追加の課題や視点、修正等のご意見をお願いします。</p>
委員	<p>4ページの老老介護する家庭が増加する赤字の部分で、老老介護や認知症は、当事者になってみないと関心を持てなかったり、課題が把握しづらいため、周知が必要ということがたくさん書かれています。誰に周知するのかというのが明確にならないために、当事者の人たちだけが頑張っているという状況になっています。こういった共有をしていく際に、本来誰にこれが伝わるかというのか、発信する側はある程度把握している状況で伝えていくことが大事になってくると思えます。</p> <p>周知が必要というのは誰もがわかっています。自分たちも誰に伝えたら改善していくかというところが課題だと思っているので、例えば高齢者ではなく、もう少し前の世代や、次に介護してもらおう立場になる人たちなのか。そこがぼんやりしていると、20歳ぐらいの人が聞いても遠い話となるので、老老介護ではそこが課題に思っています。</p> <p>誰を巻き込むのかを考えていく必要があるというようなイメージがあるかと思いました。</p>
会長	<p>アイデアとして、ある程度働いている人数が多い事業所という単位もあると思います。そういったところも含めて、色々なルートで情報が伝えられる仕組みがあってもいいと思います。</p>
委員	<p>高齢者だけではないですが、先日ふくしあで地域の懇談会のようなことをしたときに、9ページの移動困難者に対するネットショッピングなどのデジタルを活用した政策のような話題が出て、市では笑顔の集いなどがあることをLINEやホームページで発信していますが、インターネットを使わない方に届かないということがありました。</p> <p>課題としてはスマホをあまり使えてない方たちが使えるようにするということが</p>

発言者	発言内容
	<p>出てきました。</p> <p>特に高齢の方や老老介護の方でこういう情報をキャッチできない方に、簡単なスマホ教室や以前、ワクチン接種の時に高校生が高齢の方に教えたといったことを生かせないかと出ました。</p>
委員	<p>スマホについて、市としては1ヶ月に1回もしくは2ヶ月に1回ぐらい定期的に高齢者向けのスマホ教室を行っており、一番身近なラインでどう使えばいいのかを中心に講習をしているという状況です。</p> <p>ネットショッピングですが、例えば物流ドローンを使って運ぶような選択肢もあっていいのではないかと思います。</p> <p>これからそういった時代になってくると感じています。</p>
委員	<p>スマホ教室があることは承知していますが、もっと多くの人が使えるようにならないと課題だなというところです。</p>
会長	<p>情報化が進んでいく中で、色々なデジタルを使うということも当然ありますが、行政から市民の方々にどう情報を伝えるかという情報を伝えるデザインをこれからしっかりと設定しなければいけなく、デジタルデバインドもあります。デジタルをうまく使えない方々が、色々な仕組みをデジタルで提供したときに出てくる問題をしっかりとイメージしながら、どうシステムを使っていただくか、情報にアクセスしていただくかというところを考えなくてはいけないと思いました。</p> <p>これから交通のオンデマンド化でもデジタルを使ってくわけですが、伊豆で実証実験をしたときも、結局スマホ教室をしなくてはいけなかったということを知りました。</p> <p>結局、地域の方々に使っていただくために、最初のリテラシーの部分にコストが割かれるのではないかという話がありました。</p> <p>そこを使えないということやってしまうと、結局私達がこれからやろうとすることも全然うまく使ってもらえなくなってしまうので、デジタルデバインドの解消とは少し違い、情報にきちんとアクセスできるかどうかというところをしっかりと担保するような考え方のもとやらなくてはいけないという話と思っています。</p>
委員	<p>私達の地域では、組内で80、90歳近い人にLINEの使い方を教えて、LINEで流しています。失敗してもいいからどんどん打たせるということをしてもらっています。</p> <p>各家で誰か1人、おじいちゃんとおばあちゃんの2人で足りていなと思えば若い人が行って、近所の中でできる人が教えてあげるということをしています。</p> <p>教えてもらう側も知っている人に教えてもらうので、安心して聞けると思います。</p> <p>普段の使い方を顔のわかる人たちが使えるようにしていくことが近所付き合いのスタートということもあり、自分の組内では2、3年前から行っています。</p> <p>中には絶対やらないというガードが固い人もいますが、これをやるとこれだけメリットがあるとか、生活の中にこれだけ潤いがあり助かりますよということをすれば、安心して入ってきてくれると思います。</p> <p>そうすると市が行っていることにどんどん入ってくれて、情報を得ていってもらえると思います。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>同じようにうちも組内でLINEを作ろうということが始まっています。うちは、若い組長に変わった段階で、LINEを作りましょとなりまして。集金についてもLINEでくれば準備も早めにでき、組長の仕事も減り、お互い楽になると思いました。</p> <p>あと色々な団体が、掛川市のLINEをプラットフォームのように使わせていただいとっています。社会福祉協議会も、災害の講座やボランティア講座を社協だよりでしていた頃は、毎年人数が集まらなかったですが、LINEで流させていただき、色々な層の方が出てきてくれるようになり、明らかに違います。</p> <p>今は掛川市のLINEに色々な方が情報を出させるので、情報の広がりつながっていて有効と思っているので、ぜひ続けていただきたいと思います。</p>
会長	<p>LINE等は行政でどう使うかを色々点検しながら進められるといいと思います。</p> <p>うまく回っているものに関しては積極的に活用されてもいいと思います。</p> <p>スポーツについて10ページ目に誰もが参加しやすい環境作りスポーツ参画人口の課題とあり、答申にも出ていますが、これまでスポーツの話をあまりしてこなかったもので、スポーツに関して気になることがあればコメントいただければと思います。</p>
委員	<p>以前はスポーツ大会があり、バレーボールや野球など色々なものがありましたが、怪我をする方がとても多くなったので、一昨年から交流会として新体力テストをするようになりました。小学生から10代の方、80歳以上の方も来て、血圧や体脂肪の測定や、握力や背筋など年齢を重ねてもやれるものがあります。スポーツではないですが、それによって、皆さん健康や体力に興味を持たれているので、そういったこともやられてもいいと思いました。</p>
会長	<p>これまでの企画を周知し、さらにそういったところで健康に気づいていただくことも重要だと思いますので、そういったものも一度行政で点検していただき、うまく取り込んでもらうアイデアもあると思います。</p>
委員	<p>小さな自治体や地方に行くと、今も地区対抗の運動会であり、それによって地域のコミュニティを強化したり、その練習で体力維持みたいなことをやっているところもあるとは思いますが、ただ一定以上の大きな地域や市町村になると終わってしまっているのは、怪我の危険性などの背景もありますが。</p> <p>一つコミュニティの強化という意味で、eスポーツを使ったコミュニティの維持を、もう少しわかりやすい文言で行ってもいいと思います。</p> <p>大きいまちでもeスポーツを使って、若い人と高齢者が交流の場としてやり、それがきっかけで、体を動かす簡単なイベントなどに参加ができるという事例がいくつかあります。</p> <p>掛川市では、たまり一なで集まれる場所を作っていくプロジェクトも動き出しているのですが、eスポーツなどで出てきたコミュニティと、そういう実際に人が集まって体を動かす機会のようなものを、もう少しスポーツの概念を広げてやっていくといいのではないかなと思います。</p> <p>あと医療的な面で、かなり心臓が悪い方やリハビリが必要な方が、本当に簡単で負担の少ない運動によって持続的に体を保っていくことも、これから非常に重要になっていくと思うので、健康維持という意味でも、そういったところに絡めていくのは</p>

発言者	発言内容
	<p>非常に医療介護の面ですごくいいと思います。</p> <p>ただ若い人の交流と健康向上だけではなく、高齢者を巻き込んだコミュニティづくりと、たくさんある併存疾患の改善に繋げられる要素はあると思いますが、色々な人を巻き込んで、場所や時間使うものになるので、どこが主体でやっていくのかという課題はあると思いますが、医療法人や病院も一緒にやっていければいいなと考えていますので、ぜひスポーツという文言のイメージが皆さんバラバラになってしまうかもしれませんが、広い意味での e スポーツやコミュニティ形成を含めたスポーツを推進できるといいと考えました。</p>
委員	<p>ここに書かれているものは、自分たちが体を動かして参加するという意味合いのことですが、試合を観戦する、例えばこの辺では静岡ブルーレブスやジュビロ磐田、NECのレッドファルコンズといったプロチームがあるので、そこに市民総出で応援、大声出して発散することもスポーツの一つだと思いますので、そういったコミュニティを行政、地域としてもっと組織拡大できたら面白いと感じました。</p>
会長	<p>実際にやる、見るスポーツの面白さだと思います。地域プロスポーツもたくさんあるので、そういうのも面白いと思いました。</p> <p>健康のために運動するということで、散歩するゲームとしてドラクエウォークやポケモンGoは運動の継続にいいと言われているので、そういったものも含めて、地域とうまくコラボすると人が集まり、こどもたちも含めてみんなで歩きたくなるような仕組みもあるでしょうし、そういうのも積極的に考えてみていいと思います。</p> <p>ゲーム入れると多世代的になりとてもいいことと思うので、そういう観点もあっていいと思いました。</p>
委員	<p>43 ページの「富士見台の管理」の「啓発活動」の文章に、返還を促進するとありますが「対応」がよいと思います。</p> <p>管理者がいなくなるなら早めの対応を即す。返すではなく、お宅はこれからどうしていきますか、お墓を維持していく方は維持していただければいいですが、うちはあとがないからもう永代供養にしておかなくてはいけなくなる。</p> <p>その対応をしていくことが大事と思ったので「対応」にしてもらいたいと思います。</p> <p>「火葬場の運営」について「現在は火葬場待ちではなく、葬儀場待ちだと思います。」と言いましたが、先日、協会の総会があり聞いたところ、今年は1月入ったら火葬場がフル活動とのことでした。それでも業者の人がいなくて対応できないので、ホールは空いているが、働き方改革で休みを与えなくてはいけなくて、昔は担当だった人が最後まで対応していたが、4日間対応するには間に休みを入れなくてはいけないため、人がいないためできないという話でした。</p> <p>浜松は今ホールが乱立していて、これから掛川市もそうならないとは限らないので、「葬儀場待ちと思われませんが、時を見て対応していくことが必要」と修正していただきたいです。</p> <p>46 ページの「遺贈寄付を活用した生活困窮をしている」という文章で、生活困窮しているという言葉は、生活保護と一緒に何かを相談するのにためらうのではない</p>

発言者	発言内容
	<p>かとおもうので「生活困窮をしている」を削除していただいた方が良いです。</p> <p>「遺贈寄附を活用し、若者支援をできる仕組み」という方が柔らかい言葉だと思います。</p>
議事2	
会長	資料2の答申案について、一つ一つのカテゴリーでタイトルを含め、重要な部分に関して足りない文言や違う等のご意見をお願いします。
1 誰もが安心して住み続けるまち	
委員	<p>1点目の「市民による介護サービス事業所のサポート体制づくり」が具体的にどういうイメージなのかわかりにくくなってしまった。</p> <p>介護サービス事業所は私立的なビジネスの事業で、その役割をある程度市民が担うという意味合いと思いますが、これだと介護事業所の運営を市民がサポートする感じに取れるのか。元々どういうものをここに集めたのか。</p>
委員	<p>この間に説明がないと難しいと思いますが、今、介護サービスの予防的などところがプロだけでは足りないので、インフォーマルやボランティアを活用して介護サービスを提供していくという総合事業などがあり、数年の課題なので、集約されていますが、介護サービス事業所の色々な人材が足りないので、市民のボランティアやサポーターを使って事業をやっていくというのが今の介護保険の予防の部分であるので、そうなのかなと自分はイメージしましたが、事業の仕組みがわからないと難しい。</p> <p>プロがやる介護サービス事業なのに市民がサポートするところがわかりづらいです。</p> <p>制度が介護保険も進められていることを理解しているとわかります。</p>
委員	市民と介護サービス事業所の協働というか、一緒にやっていくような感じですか。
会長	<p>具体的に概念的なところを書いておいた方がよいと思います。</p> <p>細かいところは資料1の対応策に書かれていますので、市民の方々が介護サービスに関心を持っていただいて、地域の中の様々な活動に参画していくことをサポートできればいいということですね。</p> <p>そうすると、その前の介護者に対するということと、介護サービスやインフォーマルサービスの充足及び認知症の方や介護者の介護者に対する地域の支援体制の強化 市民による地域の介護力の向上でしょうか。</p>
委員	介護人材がすごく少なくなっているとか、足りないところを補うためには、介護サービス事業所だけではなく、そういった協力や参画が必要だと思います。
会長	<p>地域の方が積極的に参加しなくてはいけないというメッセージは入っていた方がよいと思うので。「地域の支援体制の強化」で一度区切り、「市民による介護サービス事業のサポート体制づくり」を1度ここで除いて、次の箇条書きで「市民の方々が地域の介護活動に積極的に参加できる環境づくり」というキーワードで、別の箇条書きにしようと思います。</p>
委員	インフォーマルサービスの充実に含まれると思いますが、明確にその介護事業に

発言者	発言内容
	関わってほしいということをここで伝える必要があれば、こういう文言を入れないとインフォーマルサービスとは何、となってしまうと思います。
委員	「支援体制の強化」までは、インフォーマルサービスや地域の繋がりところで、市民による介護サービス事業はその下の「介護人材不足や離職者の軽減に取り組むこと」のテーマになるのであれば、二つに分けて、一つは地域で関わることと、後半は人材不足に分けてはどうでしょうか。
会長	<p>この段落は大きく二つのメッセージが入っているので、2段に変更します。</p> <p>方向性としては、ご提案いただいたとおり「支援体制の強化を目指すこと」で一旦終わり、次の箇条書きの人材育成、人材の整備で、「市民の参画もできる環境を整える」というニュアンスで、2段落にします。</p> <p>次に、3段落目にあった移動とスポーツの部分は私の方で2つの段落に分けました。</p>
委員	<p>生涯学習宣言都市なのに教育という言葉が全く入っていないです。</p> <p>安心して住めるということは、教育環境も整っているし、例えば中高年にしたらリスクリングなどの環境もあり、ここにいながら色々なことが学べるということが、都市の魅力になると思いました。</p> <p>対策だけでなく、教育や文化の部分も取り組んでおいた方がいいと思いました。</p>
会長	<p>安心に入れるか、タイトルも変えないといけないと思いますが、3番の産業で、初めて「こども」というキーワードが出てくるので、その下に「全ての人たちが生涯を通して学べる」というキーワードの箇条書きを入れてもいいと思いました。</p> <p>3番でタイトルの検討もしながら、今のご指摘を入れる方向で検討してみてもどうかと思います。</p> <p>全てでそうですが、学ぶというところがないといけない。</p>
委員	<p>3番の産業にもありますが、掛川で生まれ育った人を逃がさないということを言っていると思いますが、むしろいかにして外からの若い移住者を増やしていくか。</p> <p>若い人に来てもらい、こどもをたくさん産んでいただけるのが理想と思います。そういうことを考えるならば、移住政策というところも盛り込まないといけないと思います。</p> <p>掛川市を選んでいただける、移住にしたいと思ってもらえるようなまちにしていこう。</p> <p>そのために働き口としての企業活性化や企業誘致も必要で、住環境や子育て政策、地域コミュニティも大事で、そこに空き家の活用も入ってくる。あと安全性や教育も移住を決める要素になってくるので必要と思いました。</p> <p>多死という現象に対する解決では、医療や介護は大事になってくると思います。</p> <p>加えて医療アクセスや介護アクセス、買い物などを考えると、理想はコンパクトシティになっていくべきだと思います。</p>
会長	今回この会議は「多死社会の到来に向けた」というキーワードでお題をいただいています。

発言者	発言内容
	<p>本来、多死社会云々というところで、本当はこどもの問題なども考えなくてはいけませんが、今回、こどもや子育ての話は出てきていないので、それはそれで考えるべきことですが、別の会議で行うでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>今回、多死社会の高齢者も含めた対策やそういう時代にどのように持続可能なまちにしていくかということで、若い人を増やすというところもあります。</p> <p>一方、来年、総合計画の中で未来に向けてどういうまちづくりをしていくかという議論を行っていく予定なので、その中で組み込んでいきたいと思えます。</p>
会長	<p>これが総合計画全部に対応しているわけではないので、今回皆さんで議論していただいたことを中心にお答えする方向で進め、こどもの問題や教育の問題も目が向いていましたというぐらいで、箇条書きで追加し、別途考えていただくようにしたいと思います。</p> <p>私達が答えられる部分をまず答えていく、という方向で調整します。</p>
委員	<p>最後の文章に、「それらの対策を踏まえ、掛川市の全ての人々が」と入っているという部分で、ある程度整理していくことも大事と思いました。</p> <p>ここに入っていることで、そこにも目を向けたというメッセージは伝わっていると思えます。</p> <p>ここだけでは気になるところがあれば入れるべきと思いますが、追加で前文を入れるよりも、これが最後に入れてあることを踏まえて考えていいと思えます。</p>
会長	<p>例えば2番の2段落目を「シニア世代」から「すべての世代」に変更しています。高齢者関係の問題はきちんと解決しないと、こどもたちに全部その問題がいつてしまうことも大きな問題ではあります。</p> <p>ですが、キーワードで「教育」を入れたいと思えます。</p> <p>あと移住者に関しても、例えば3番目のところで「住み続けたいと希望する」ということでその前に「掛川市で生まれたこどもたちが」という話だけになっているので、さらに「移住したい」というか「住みたいまちづくり」のようなキーワードを入れて、それも含めた全ての人という形で繋がるように加筆修正します。</p>
<p>2 ステークホルダーが繋がり活躍できるコミュニティの形成</p>	
会長	<p>私の方で2段落目に「すべて」と加筆しました。</p> <p>「活動できる場の検討をすること」とありますが、「活躍」でも良いと思えます。</p>
委員	<p>私も「シニア世代」を「すべての世代」で賛成です。</p> <p>その次の「民生委員の担い手不足に対して」について、「民生委員が活躍できる地域コミュニティの形成」の文章だけでは議論した内容がイメージイメージできないです。</p> <p>元々は資料1の15ページの黄色の箇所の「民生委員の方がきちんと活躍できる地域コミュニティを」からですが、いきなり活躍となってしまうと少し強い気がするので、「安心して活動できる地域コミュニティの形成」にしてはどうでしょうか。</p> <p>この意図は、民生委員が担い手不足ですごく大変で、今後オンラインで色々な会議の回数を減らしていくので、民生委員として安心して活躍できるようにしてい</p>

発言者	発言内容
	ますというニュアンスと思うので、今活動してる民生委員たちへの敬意も含めて「活躍」から「安心して活動」という言葉にした方がいいと思いました。
3 産業の継承活性化および労働者不足の解消	
会長	最初の段落で、移住者の話と誰でも多くの方が住みたいまちづくりという形でキーワードを追記したいと思います。 あと産業の活性化の箇所を箇条書きに変えるかもしれません。
委員	2段落目で、「空き家等の創業支援」となっていますが、ここは「空き家等を活用した創業支援を行う」が良いと思います。
会長	2段落目で「大型店舗にはない」と書く理由があるのかよくわかりません。 大中小を区別せず、両方きちんとあった方がいいと思うので、ここは「魅力ある商店街」であれば、それは人がたくさん来ることになるので「大型店舗にはない」を書かなくてもいいと思います。
委員	直していただければ「魅力ある商店」でいいと思います。 個々のお店が光ってきて、結果的に地域が光る。地域活性化というよりも、個店の魅力アップを目指していく。
委員	茶業について、このように書いていただいて茶業に携わる者はありがたいと思いますが、実はお米ももうやれないという方が多くなっています。 あるところではもう本当にできないということで、山梨から来て空き家に住まれて野菜を作っているというところもあります。 なので、茶業もそうですが、農業全般になってきたというところが見られるので、それを踏まえた優しい言葉にならないかと思っています。 現状お米ができなくても太陽光になり、これから対応が進み、その下で掛川の農産物を作っていくようにすれば、若い方たちが入ってくることもあると思います。
会長	地域の農業の力を持続的にすることを、耕作放棄地の前の段落に入れるといいでしょうか。 そうすると、なぜ耕作放棄地の問題、茶業もやらなくてはいけないのかというところに繋がるので一文農業の言葉を追加してみます。
委員	先ほどのところで、魅力ある商店をさらに活性化するというで「魅力ある商店の活性化」が良いのではないのでしょうか。 魅力あるところは活性化しているのではないのでしょうか。
委員	商店を取って、「魅力ある商店の支援に取り組み」でどうでしょうか。
会長	支援だけでなく創業支援でしょうか。
委員	創業だけでもないと思います。
会長	魅力化という言葉もあるので「新しい商店も含めて、今ある商店をさらに魅力化・活性化してく」がいいと思いますが、文面は再度考えます。
4 協働によるセーフティネットの充実	
会長	2段落目の「私の健康人生設計ノートを活用した終活」の「終活」と言葉「活用し

発言者	発言内容
	た人生設計を推進すること」に変更したいと思います。
委員	<p>ご意見を聞きたいです。</p> <p>1段落目の3行目の「自助・互助による日常性の中での見守りや孤立予防ができる環境づくり」に共助入れなくてよいでしょうか。</p> <p>共助という言葉調べると費用負担や制度の裏付けがあり、互助は相互に支え合い、自発的な活動という意味になるので、ここに共助を入れない意図して入れないよう見えます。</p> <p>確認ですが、全体を見ると市としてそういうことが大事で、市として応援していきたい、進めていきたいという流れがあるので、あえてここに共助という言葉を入れなかったという説明がつけばいいと思っています。</p> <p>地域に出ていくと自助・互助・共助と言われることが多いので、共助を入れなくても大丈夫でしょうか。</p>
委員	互助と共助の違いは何ですか。
委員	互助と共助の違いは、介護保険のような制度が後ろにあるものは共助です。
委員	それは公助ではなく、共助になり、四つあるということですね。
委員	<p>自助・互助・共助・公助があります。</p> <p>共助は私達がお金を出し合い、プラス税金も含め、制度の裏付けがあることです。</p> <p>互助は相互に支える自発的なものなのでボランティア精神というところになります。</p> <p>見守りはもっと進化していかないといけないので、これでいいのかなと思います。</p>
委員	公助と共助の違いは何ですか。
委員	地域包括ケアで、公助は補助金をもらうもので、共助は自分たちも介護保険料を払っているので支え合っているとなります。
委員	自己負担があるかないかですね。
委員	公助の概要の中には、自己負担があつてのものもあるのではないですか。
委員	<p>自助・互助・共助・公助の4つに分かれています。</p> <p>市民の方に言うときに、これからは自助・互助のところを強めていかないのではないかと思います。</p> <p>これを見てどこまで皆さんがそう思うか、知っているかどうかです。</p>
会長	<p>共助もあっていいと思いますが、今回は地域の方々もしっかり考えようということで、自助・互助でも良いと思います。</p> <p>自分は自助もなくして、互助を市民として押し倒すべきだと思いますが、自助も行政として自分でやれるところはやることも必要だと思うので、今回は自助・互助にして、ご意見いただいたら説明するようにしてもいいと思います。</p>
委員	確認で、自助による見守りは、自分による自分の見守りになるので、色々な商業サービスなどの購入も含めてという意味ですよろしいですか。
委員	はい。その議論もあつたと思ったので、そこは自助と互助でいいと思います。

発言者	発言内容
結びの言葉	
会長	3行目は「対策」を「対策案」に変更したいと思います。
委員	<p>最初に市長が、多死社会という言葉を使うのはインパクトが大きいですが、そういうことを皆さんに考えてもらいたいので、積極的に多死を使った会議体を作ったと思います。</p> <p>今まで色々なセクションに分けて話をし、その都度その都度の対策を練ってきましたが、多死社会全体を通して我々はどういう心構えを持ったらいいのかという全体を通した意見は、最後の文章しかないという意味で、すごく重要な位置づけになっていると思います。</p> <p>さらに最後の「尊厳のある豊かな人生を最後まで全うできるまちづくりを希望します。」というところは、本当にみんなが求めているところで、そのためにその前の文章はすごく重要だと思っています。</p> <p>亡くなる人を見ていると、例えば亡くなった方は皆さん好きな服を着ます。帽子を被る人もいれば、お祭りが好きだから法被を着る人などすごく多様な人がいます。</p> <p>多死社会では、世界でもここまで高齢化している国はないので、何が起こるかわからない。</p> <p>色々な人がいて多様な考え方があることに対して、「必然となった社会において変化する価値観や考え方を的確に予測し」という文言は、何か価値観や考え方の主流があって、それをこういうものですよという考え方自体が駄目なのではないかと思います。</p> <p>そうではなく価値観や考え方が多様にありますということ、みなを受け入れた上で、そういうことに柔軟に対応する心持ちを持つという文言の方が、より多くの人を支えられるのではないかと思います。</p> <p>変わっていくことは変わっていくと思いますが、価値観や考え方の主流がこういうふうですと考えた時点で、主流以外の人全部取り残されるというのが今の状況かなと思います。</p> <p>そういう意図を持って作ったわけではないと思いますが、こういうふうに考えてしまうと、価値観や考え方がこうです、そこから外れた人が脱落するということがらむ文章になっています。</p> <p>ここは全体を通してどういう心構えで持っていくかというところで、重要な意味を持つので、丁寧な文章で、特に全ての人という言葉を使う場合には、そういうふうになっていく懐の深さみたいなものを包含した文章にしないと、全員は難しいと思いますが、どなたかが取り残されてしまうと考えます。</p> <p>色々な多様性を予測するということが少しおかしいという気がします。</p> <p>色々な考え方や価値観があるということ、みんなが尊重し合うようなことが求められているのではないかと思います。</p>
会長	受け入れもそうで、多様な価値観を尊重した対策を考えることが必要だというニュアンスで、文章を一度切ります。

発言者	発言内容
	<p>多様な価値観や考え方をきちんと踏まえた対策で全ての人が尊厳のあるという形にします。</p> <p>予測することはなかなか難しく、出てきたものに対してきちんと受け入れていくという姿勢が重要なことで、多様な価値観があるというところをもう一度文章に入れたと思います。</p> <p>最終的な答申案は、私と藤原委員で調整させていただき、それを事務局様にお渡しして、それを皆さんに配信し、それを踏まえて答申するという形になると思います。</p> <p>本日いただきましたご意見をもとに当会議の正副会長の方に一任させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>答申のセレモニーについては、委員の皆様にお集まりいただくことはせず、後日正副会長により、市長へ答申書の提出を行いたいと思います。</p> <p>最後に全4回の会議において、皆様から非常に活発なご意見とかいただいたと思います。</p> <p>ご意見いただいた内容を、事務局等でご議論いただき、このような資料を作っていたいただいと理解しております。</p> <p>積極的に市民の方が参画し、意見を行政にお伝えしてまち作りをするというのは重要な取り組みと思いました。</p> <p>最終的にはこちらを踏まえ、総合計画で目にすることとなりますので、その都度何かあれば行政に皆様から声をかけていただければと思います。</p> <p>事務局に司会を開始したいと思います。</p> <p>皆さんご協力どうもありがとうございました。</p>
7. その他	
事務局	皆さん、本当に活発な議論ありがとうございました。
市長	<p>皆様、本日も含め4回の会議で熱心にご議論いただき誠にありがとうございました。</p> <p>答申という形で言葉をまとめるにあたり、1個の表現が本当に繊細で、言葉というものはすごく繊細だと改めて感じたところがあります。</p> <p>来週2月19日から掛川市議会2月定例会が開会しそこ、で新年度予算案が審議されます。</p> <p>私は1期目の任期が4月で終わろうとしていますので、今期中では最後の議会を迎えることとなります。</p> <p>来週の開会の際に所信表明をしますが、そのときに申し上げようと思っていることは、多死社会という現象も生じ、少子化ももちろん深刻になっており、様々な持続可能性が問われているという非常に厳しい時代も迎えているということが前提としてあります。</p> <p>ただ、私達はそれで後ろ向きになったり、対処療法だけに陥ったり、受け身になるということではなく、そういった中でも、あるいはそういう厳しい状況だからこそ、前を向いて、今後10年間どのように未来に向かっていくのか、私どもは厳し</p>

発言者	発言内容
	<p>い中でも投資は行っていかないといけないですし、未来世代に向けて、しっかりと道筋を描いていかないといけないと申し上げるつもりでいます。</p> <p>今回いただくことになる答申も踏まえながら、今年は掛川市になって20年という節目の年ですが、これを機会に次の10年に向かって前向きな未来を築いていきたいと思っております。</p> <p>答申のセレモニーが別途ありますが、そこに来られないという方もいらっしゃるのではこの場をお借りして、これまでのことに御礼申し上げます。</p>
事務局	<p>本日、答申について色々ご意見をいただきましたので、修正をさせていただき、皆様にも一度ご確認をいただいて最終的には会長、副会長に確認を取って答申とさせていただきます。</p> <p>今回の議論ですべてを網羅できていませんが、なるべく総合計画や個別政策に答申案も含めた全体の対応策を反映してまいります。</p>
8. 閉会	
事務局	(省略)